

技術評価シート（フィールドワーク）の評価基準の解説

一般財団法人全日本野球協会
アマチュア野球規則委員会

1. 1 塁塁審のフォースプレイ

■ 評価基準の解説

- ① 野手が送球するときには、ベースに正体してスタンディングで止まっていて、ベースとの距離、角度が適切である。
 - A) ボールが打たれたら、すみやかにスタートし、少なくとも野手が送球するとき（ボールが手を離れるとき）には、止まっている。これは、1 塁でのプレイを余裕をもって待ち受けるため。
 - B) ベースに正体して止まり、スタンディングのまま顔は打球を処理した野手に向けている（ボールから目を離さない）。
 - C) 2 塁手が1・2 塁間で打球を処理したときなど、“プレッシャーがかかる”場合は、ファウル地域に出ている。
 - D) ベースとの距離は、おおむね5 m～6 m。
 - E) ベースとの角度は、送球に対しておおむね90度。
- ② 2 塁ゴロのときは、リードステップができています。
 - A) 2 塁手の方向にゴロが打たれたときは、リードステップにより（右足を引いて）ファウルラインと平行に立っている。
 - B) 2 塁手の動きを見て、フェア地域に入るか、ファウル地域に出るかの判断ができています。
- ③ 適切なタイミングでボールから目を離し、セットポジションでプレイを待ち受けている。
 - A) 送球の軌道（1 塁手がどのタイミングで、どの位置でボールを捕れるかなど）の判断が適切にできています。1 塁手が捕球する直前まで目でボールを追っていない。
 - B) 上記A)の判断ができたなら、ボールから目を離してベースに焦点を合わすと同時に、セットポジションをとっている。
 - C) 上記A)、B)により、プレイを待ち受けてジャッジができています。
- ④ ダブルプレイのときは、すばやく適切なポジションに移動し、セットポジションでプレイを待ち受けている。
 - A) ボールが打たれたら、ボールを見ながら、すぐにベースとの距離がおおむね5 m～6 m、送球との角度がおおむね45度

または90度の位置に移動している。

B) ベースに正体して止まり、スタンディングのまま顔は打球を処理した野手→ピボットマンに向けている。

C) ピボットマンがボールをリリースしたら、すぐに顔もベースに向けながら（身体の全部をベースに正体させて）、セットポジションをとっている。

⑤ アウト、セーフを適切な形とタイミングでコールしている。

A) アウト、セーフが適切な形で、切れのあるジャッジができている。

B) アウトは、プレイの判断の後に1塁手のボール確捕を確認してから、コールしている。

C) セーフもプレイの判断（確認）の後にコールしている。走者がベースに触れると同時にコールしていない。

■ a・b・c判定の判断基準

- a判定：①～⑤ができている。
- b判定：①～⑤のうち、できていないものが一つある。
- c判定：①～⑤のうち、できていないものが二つ以上ある。

2. 2塁盗塁

■ 評価基準の解説

① 適切なタイミングでボールから目を離し、ベースに正体しながらセットポジションをとり（2テップまたは4ステップ）、ベースに焦点を合わせてプレイを待っている。

A) 捕手が投球を捕ったら、捕手から目を離さずベース側の足からベースに向けてステップを始め、ボールを待ち構える準備ができている。

B) 送球の軌道（野手がどのタイミングで、どの位置でボールを捕れるかなど）の判断が適切にできている。野手が捕球する直前までボールを目で追っていない。

C) 上記B)の判断ができたなら、ボールから目を離してベースに焦点を合わすと同時に、セットポジションをとっている。

D) 上記A)～C)により、プレイを待ち受けてジャッジできている。

② アウト、セーフを適切な形とタイミングでコールしている。

A) アウト、セーフが適切な形で、切れのあるジャッジができている。

B) アウトは、プレイの判断の後に野手のボール確捕を確認して

から、コールしている。

C) セーフもプレイの判断（確認）の後にコールしている。野手がタッグすると同時にコールしていない。

■ a・b・c判定の判断基準

- a判定：①と②ができています。
- b判定：①はできていますが、②ができていない。
- c判定：①ができていない。

3. 3塁ゴロの打球判定・ランダウン

■ 評価基準の解説

- ① 球審は素早く3塁・本塁の延長線上に移動して（3塁塁審はその場でラインをまたぎ）、ラインの確保ができています。
 - A) 球審は、ボールから目を離さず、マスクを外しながら移動し、3塁手がボールに触れるときには3塁・本塁の延長線をまたいで止まっている。
 - B) 塁審は、ゴロが打たれたらファウルラインをまたぎ、止まってプレイを待ち受けている。（始めからラインをまたいでいる場合を除く。）
- ② 打球判定の範囲が理解できている。
 - A) 3塁手がベースより明らかに前でボールに触れた場合は、球審が判定している。
 - B) 3塁手がベースの近辺、またはベースより後ろでボールに触れた場合は、塁審が判定している。
- ③ ランダウンが始まったら適切なポジションに移動し、走者の行動に合わせて行ったり来たりしていない。
 - A) ランダウンが始まったら、ベースから4m～5m前に出て、ファウルラインから3m～4m離れたところに位置している。
 - B) その位置でプレイの成り行きを見ていて、走者の行動に合わせて行ったり来たりしていない。
- ④ 野手がタッグしようとしたら踏み込んでいき、タッグポイントを確認している。
- ⑤ オン・ザ・タッグ、ノー・タッグ、ラインアウト（アウト・オブ・ザ・ベースパス）、アウト、セーフなど、プレイに応じたジェスチャーやコールを適切なタイミングでできている。
 - A) アウトの場合、必要に応じてオン・ザ・タッグのジェスチャーをした後、ボールの確捕を確認している（走者を見るので

はない)。

■ a・b・c判定の判断基準

- a判定：①～⑤ができています。
- b判定：①～⑤のうち、できていないものが一つある。
- c判定：①～⑤のうち、できていないものが二つ以上ある。

4. 飛球判定（センターフライ）

■ 評価基準の解説

- ① ボールが打たれたら、まずリードステップ（ポーズ）ができています。
 - A) ボールを目で追いながら1塁塁審は右足を引いて、3塁塁審は左足を引いて、ファウルラインと平行に立っています。
- ② 野手（相手方の審判員ではない）の動きを見て、自分の責任打球と判断する時間が適切である（リード）。
 - A) ボールから中堅手に目を移し、自分の責任範囲の打球かどうか適切な時間で判断している。
 - B) 判断が遅いと、相手の審判員が打球を追わざるをえなくなったり、対応が遅れたりしてしまう。
- ③ 「ゴー・アウト」と大きく発声し、相手方の審判員をチラッと見ながら打球を追っている（リアクト）。（打球を追わない場合は「OK」と応えている。）
 - A) 自分の責任打球と判断したら、「ゴー・アウト」(I'm going out!)と大きな声で相手方の審判員に伝えながら、打球を追っている。このとき手を上げる必要はない。
 - B) スタートするとき、相手方の審判員をチラッと見ている。相手方の審判員がほぼ同時にスタートしたら、どちらかの審判員が追うのをやめる。
 - C) 相手方の審判員の「ゴー・アウト」(I'm going out!)の声が聞こえたら、「OK」と大きな声で返し、その後はメカニクスの動きをしている。
- ④ 野手が打球を捕る前に止まり、スタンディングで判定できている。
 - A) 打球を追った審判員は、適切な角度をとりながら移動し、必ずボールが野手やグラウンドに触れる前には止まって、スタンディングで判定している。また、状況によっては確捕の確認のため移動した後、判定している。
 - B) 打球を追わなかった審判員は、打球の行方を見ながら、触塁の確認などを行っている。

■ a・b・c判定の判断基準

- a判定：①～④ができている。
- b判定：①～④のうち、できていないものが一つある。
- c判定：①～④のうち、できていないものが二つ以上ある。

5. 2人制メカニクス

■ 評価基準の解説

- ① 他のアンパイアの動きを確認し、声の連携ができている。
 - A) メカニクスハンドブック第5版の61ページ「2. 声のコミュニケーション」に書かれていることが、よく理解できている。
 - B) 塁審はワーキングエリア内にとどまり、常にボールに正体して、走者の動きや触塁を確認しながらプレイを読んでいる。
- ② プレイを読んだ適切なポジショニング（角度・距離）ができている、セットポジションでプレイを待ち受けている。
 - A) 「担当する塁でプレイが起こる！」と読んだら、適切な角度と距離に移動する。2人制では、2人で4つの塁をカバーするため、距離よりも角度を優先する。
 - B) 適切なポジションで早めに止まり、セットポジションでプレイを待ち受けている。
- ③ アウト、セーフを適切な形とタイミングでコールしている
 - A) アウト、セーフが適切な形で、切れのあるジャッジができている。
 - B) アウトは、プレイの判断の後に野手のボール確捕を確認してから、コールしている。
 - C) セーフもプレイの判断（確認）の後にコールしている。走者がベースに触れると同時に、または野手がタッグすると同時にコールしていない。

■ a・b・c判定の判断基準

- a判定：①～③ができている。
- b判定：①と②はできているが、③ができていない。
- c判定：①と②のどちらかができていない。

6. 本塁タッグプレイ

■ 評価基準の解説

- ① スターティングポジションからプレイを読んだ適切なポジション（距離・角度）にすばやく移動し、止まって（スタンディング・シ

ザースでかまわない) 判定している。

A) 1 塁線または 3 塁線の打球の場合、素早く 1 塁・本塁または 3 塁・本塁の延長線上に移動して (ボールから目を離さず、マスクを外し)、ラインの確保ができています。

B) 捕手はスワイプタグをするケースが多いため、タグポイントが写真のコマ送りのように変化しますが、これに合わせた位置取り (距離・角度) ができています。本塁との距離が遠いと、タグポイントの変化に対応できなくなる (移動が間に合わない)。

- このポジショニングについては、『都道府県審判指導員マニュアル第 1 版 (2016 年改訂版) 修正一覧』(BFJ ホームページに掲載) の「17 本塁のタグプレイ」を参照。

- 1 塁線の打球の場合、フェアの判定をしてから移動する時間がない場合、その場で判定してかまわない。

C) 上記 B)により、タグの直前まで動いている場合もあるが、止まって判定するためには、セットポジションをとる時間がない。このため、スタンディング・シザースでかまわない。

② アウト・セーフを適切な形とタイミングでコールしている。

A) アウト、セーフが適切な形で、切れのあるジャッジができています。

B) アウトは、プレイの判断の後に捕手のボール確捕を確認してから、コールしている。

C) セーフもプレイの判断 (確認) の後にコールしている。捕手がタグすると同時にコールしていない。

■ a・b・c 判定の判断基準

- a 判定：①と②ができています。
- b 判定：①はできているが、②ができていない。
- c 判定：①ができていない。

7. キャンプゲーム

■ 評価基準の解説

① 規則をよく理解していて、適切な処置ができるなど、習得度が高い。

A) キャンプゲームマニュアルにある各ケースの規則が理解できている。

B) ボールデッドにするときは、球審はダイヤモンド内に入り、

塁審はその場で、大きな発声とジェスチャーができています。
また、相手方のアンパイアがタイムをかけたら、同調してタイムをかけています。

C) 打者・走者へのアウトの宣告、進塁・帰塁（打ち直し）の指示、ナッシングなどについて大きな発声とジェスチャーができています。

■ a・b・c判定の判断基準

- a判定：A)～C)ができています。
- b判定：A)はできているが、B)とC)のどちらかができていない。
- c判定：A)ができていない。

8. ジャッジの正確性

- 各評価項目において、a判定またはb判定とするには、ジャッジがおおむね正しいことが前提となる。

以上